



自然の解説者

新年号 [第30号] 2011年1月5日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙

事務局：〒370-0006 高崎市問屋町 1-4-1

センチュリー高崎問屋町 605

大石 紘一様方

<http://orange.zero.jp/asakurai.oak/>

編集：総務・企画部会

第34回全国育樹祭に参加して

平成22年10月3日 県立森林公園21世紀の森

10月3日、県立森林公園21世紀の森に於いて「樹の息吹 育ててつなぐ 地球の未来」をテーマに第34回全国育樹祭が開催されました。今回の育樹祭は平成10年に本県で開催された第49回全国植樹祭を受けてのものです。県、社団法人国土緑化推進機構が主催し、総参加者数は6,000名、当協会からはサポーターとして22名が参加しました。

前橋合同庁舎からシャトルバスに乗り午前5時40分頃会場の「県立森林公園21世紀の森」に到着した頃、ようやく東の空が明るくなってきましたが、会場周辺は霧に包まれていました。入場の際に空港で行うような手荷物検査がありました。私たちサポーターの仕事は中央、県内外の特別参加者を座席に誘導する案内係でした。午前7時半から9時半まで仕事をして業務は終了。緊張していたわりにはあっけない2時間でした。

サポーター席に移動して、式典を観覧しました。プロローグとして宗次郎の心にしみるオカリナの演奏や東京農大二高の生徒による素晴らしいマーチング、だんべえ踊り、八木節が披露されました。

午前10時半に皇太子殿下がお着きになり、開会となりました。幸いこの頃には霧は晴れ、陽が差してきました。主催者の挨拶と歓迎のことばが済むと、皇太子殿下から「森林を守り育てる活動の輪が、ここ群馬から全国へ、世界へと広がり、そして未来へと継承されていくことを切に願います」とのおことばがありました。さまざまな功労者の表彰が終わると、いよいよ皇太子殿下によるお手入れ（枝打ち）が行われました。お手入れの木は12年前天皇皇后両陛下のお手植えなされた木です。皇太子殿下は杉の枝打ちのお手入れに苦勞なされ、苦笑いの笑みをうかべてノコギリで切り落とされました。その後、緑の少年団活動発表、誓いのことば、と続きメインテーマアトラクションに入りました。歌手の安田姉妹（安田祥子・由紀さおり）による「ぐんま自然との共生・四季」を歌う美しい声が会場に流れ、それに合わせて県内の小、中、高生による「風のダンス」が踊られました。次いで主催の理事長による「森林の有する多面的機能が持続的かつ十分に発揮されるよう、国民参加の森林づくりを一層推進する」で始まる大会宣言がなされました。そして次期開催県の奈良県知事の挨拶の後、閉会のことばがあり12時近く皇太子殿下は御退席な



サポーター席から式典を観覧

されました。その後さまざまなアトラクションが行われ、午後1時半すべての行事が終了しました。なお育樹行事として「森の広場」での枝打ち、樹木園での土壌改良が行われました。

今回育樹祭に参加して思ったことは、実質的な育樹業務は、8月と9月にかけて私たちを含むサポーターが行った下草刈りや土壌改良材の袋詰め、育樹地整備（樹木1本につき土壌改良材を埋め込む4つの穴掘り）やプランター製作（県内の実業高校生）とその設置だったということです。育樹祭はまさに「お祭り」で、しかもなかなか見ごたえのある立派なお祭りだったと思います。行事は開催までの準備と練習で七割かた終わっていて、当日は仕上げの三割と言われるが、その意味で言えば今回の育樹祭の準備は万端整っていたと言えるでしょう。



9月19日(日)に行われた土壌改良材用穴掘り作業

<協会活動のトピック>

平成 23 年度「自然の解説者養成講座」受講生募集

当協会主催による「自然の解説者養成講座」は、当協会の目的を共有できる人材の育成およびボランティア活動に意欲のある人の養成を目的としたもので、平成 22 年度に引き続き来年度も実施します。知人、友人への紹介もよろしくお願いたします。募集要領は下記の通りです。

期間 平成 23 年 4 月より平成 24 年 2 月まで 日曜日を使っての合計 15 日（最後は修了式）

内容 自然解説者ボランティア活動に必要な“基礎知識”と“実践技術”

植物、土壌、水生生物、昆虫、キノコ、哺乳類、爬虫類、野鳥、地球温暖化対策、森林と林業、森林整備
体験、巨樹ツアー、ネイチャーゲーム、救命救急法

対象 高校生以上で県内各研修所まで来場可能な人

募集定員 30 名（先着順） 最小催行人数 20 名

受講費用 10,000 円（傷害保険を含む）

募集期間 平成 23 年 1 月 5 日～平成 23 年 3 月 31 日

募集方法 「はがき」、「FAX」又は「メール」に郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、職業、電話番号を記入してお申し込みください。（個人情報については外部に公開することはありません。）

（宛先） 〒370-0006 高崎市問屋町 1-4-1-605 NPO 法人 ぐんま緑のインタープリター協会 事務局：大石絏一
電話&FAX：027-386-8095 メール：inpuri@green.zero.jp

<活動報告>

自然体験活動 前橋市パイロット事業（ネイチャーゲーム） 9月26日（日） 当協会主催（受託・協力部会）

前橋市粕川町のおおさる山乃家で、一般参加の親子 10 名、協会員 9 名が参加してネイチャーゲームと水鉄砲作りを楽しみました。ネイチャーゲームでは協会員の 5 名（大石、竹之内、宮崎、櫻井、浅沼）が分担してリーダーになり、ノーズやカムフラージュなどで自然を学び、水鉄砲作りでは大松講師の指導のもと、親子で工具を使い真剣に取り組みました。

全国育樹祭 10月3日（日）（社）国土緑化推進機構・群馬県主催 協会員は自由参加

21 世紀の森で行われた育樹祭にサポーターとして当協会からは 22 名が参加した。事前に行われた会場整備の草刈りや肥料作り、肥料のための穴掘りのボランティアにも数名ずつ参加し、育樹祭行事をサポートすると共に、大きな行事を体験する良い機会になった。

緑のインプリの森整備 10月9日（土） 当協会主催（緑のインプリの森部会） 参加人数 9 名

昨日までの好天が一転して朝から小雨もよう。今回は雨なので安全の為チェーンソー作業は中止し、来月の「親しみの森整備」の準備として、1 班は刈払い機 2 台で道路の雑草刈り、1 班は手鎌で林内整備を行った。道路の草刈りが終了した時点で雨が本格的になってきたので終了とした。林内作業班は鹿に遭遇したとのこと。

森の体験ふれあい事業（竹かご作り） 10月10日（日） 当協会主催（受託・協力部会）

伊香保森林学習センター（サロン）にて講師として「竹工芸友の会」会長新井篤氏他会員 4 名をお迎えし、一般 20 名、協会員 16 名が参加して実施しました。縦横各 8 本、計 16 本の竹ヒゴに奮闘しながら曲線の美しい竹カゴを編み上げました。竹ヒゴ作りの実習もあり、細く均等にヒゴを裂いていく職人技に参加者は驚きの表情でした。

**自然体験活動 前橋市パイロット事業（落ち葉のしおり）** 10月17日（日） 当協会主催（受託・協力部会）

前橋市粕川町のおおさる山乃家で、一般参加者 16 名、協会員 10 名が集まり、「私を見つけて！名前を付けて！」と題して、講師の須藤さんが準備した植物や昆虫の写真を指名手配写真に見立て、豊かな自然の中を探索しました。時には歓声もあがり大人も子供もワクワクする時間を過ごしました。また、午後のしおり作りでは参加者は時を忘れて真剣に芸術作品を作っていました。

**第 12 回ぐんま環境&森林フェスティバル** 10月24日（日）ぐんま環境森林フェスティバル実行委員会

県民一人ひとりが「環境」と「森林」を考える契機とするため「かけがえのない環境を子どもたちに」をテーマに、52 団体が参加し、群馬産業技術センターで開催されました。当協会員 14 名が参加し、ネイチャークラフト（木の人形、ネームプレート、バードコール、竹トンボ、シノ笛）作りをしました。“緑の募金”として、12,000 円が寄せられました。

サンデンフォレスト赤城事業所の見学会 10月28日（木） 当協会主催（緑のインプリの森部会）

大規模な近自然工法の導入で評価の高いサンデンフォレスト赤城事業所の協力により、協会員 20 名が参加して、連携整備するための現地状況の見学会が行われました。標高 480m の事業所に隣接する森林整備予定地 1.1ha 余は、広葉樹林と杉・桧の針葉樹林で覆われ、アズマネザサが繁茂しており、下草刈りや間伐などが当面の活動になりそうです。

**元気 2 1 での活動 PR 事業<ネイチャークラフト>** 11月6日（土）市民活動支援センター主催

市民活動支援センター「元気 2 1」で 11 月 1 日から 14 日に行った協会活動 PR のパネル展示と並行して、11 月 6 日（土）にネイチャークラフトの実演を行いました。協会員 7 名が参加し、午前 10 時から午後 2 時までネームプレート、木の人形ストラップ、シノ笛の 3 種類を作りました。訪れた人は 50 人ほどでしたが、子供たちに大変喜んでもらえました。

**親しみの森・緑のインプリの森整備** 11月14日（日） 当協会主催（緑のインプリの森部会）

午前、親しみの森整備 4 7 名参加（内、協会員 10 名）午後、全員で本年最後のインプリの森を確認して散会した。

**アケビつる細工研修** 11月18日（木） 当協会主催（総務・企画部会）

安中市在住の田川真知先生を講師として迎え、伊香保森林学習センターにおいて、女性協会員 8 名が参加して実施されました。アケビつるを手にするのも初めてという人がほとんどでしたが、熱心な先生の指導の下に、とかく邪魔者扱いされるつる植物が立派な籠としてよみがえり、活用されるということを実感した貴重な体験でした。

緑の窓



昼休みのバードウォッチング

七期生 井上 勝



鳥が巣を造るケヤキの大木



北関東道伊勢崎IC近く、通称「小沼」

きっかけは七期生最後の講習、多々良沼での「野鳥観察」です。観察が気に入り双眼鏡を購入したことで沼通いが始まり、ここに決まるまで3ヶ所位替わり1年位前からここに落ち着きました。

昼休みに弁当持参しピクニック気分で毎日通う沼は三角形で周囲4百メートル位、各面ごとに北東側は雑草地、西側は竹林・雑木林・畑、南側は道路で道路の南には田んぼが広がり、道路中央部に養鯉小屋があり隣に鳥が巣を造るケヤキの大木があります。

今迄に観察した鳥は①体がまん丸とした橙色で横から見ると銀髪のようなかわいいうジョウビタキ、②黒い頭に白い頬全体が白黒のコントラストが綺麗なシジュウカラ、③その鳴き声は有名だが姿は驚くほど地味な暗黄緑のウグイス、④全身白黒のコントラストで尻尾をリズムカルに動かしながら落ち着き無く動きまわるハクセキレイ、⑤金縁メガネで純白のネックウォーマーをしたようなお洒落なコチドリ、⑥茶系のパッチワーク姿で頑丈そうな嘴をしたシメ、⑦スズメと見間違えやすいが羽先の黄色が特徴のカワラヒワ、⑧全身艶のあるグレーのコートをはおり黒のベレー帽をかぶった全身に気品ある姿だが、超美形のオカマがダミ声で怒鳴っているような鳴き声と姿の違和感が激しいオナガ、⑨チョコチョコと歩いては胸を張って立ち止まり、まるで達磨さんが転んだ遊びをしながら餌探ししているツグミ、⑩水面近くをすごいスピードで飛び回りその美しい姿は溪流の宝石と言われ美しい野鳥の代表として必ず名前が挙がるカワセミ、⑪姿は地味な暗黄緑だが顔中口にして大きな声で特徴ある鳴き声で張り合っているヨシキリ、⑫私の1番のお気に入りは小さいながらも猛禽類のモズ、黒ブチ眼鏡で茶系の衣装に長い尾、決して群れず悠然と木の先に留り周囲を見渡していて特に冬場は体がまん丸になり、まるでフェルトで作った可愛い置物のような全く違ったイメージになります。

その他スズメ・ハシブトガラス・ムクドリ・ヒバリ・キジ・キジバト・ホオジロ・トビ・イソシギ・ゴイサギ・アオサギ・カイツブリ・オオバン・バン・カルガモ・マガモ・カウなど冬に小鳥が多く見られ、夏場は水鳥の観察が中心になります。

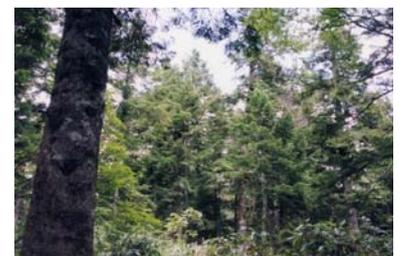
豆知識

群馬の亜高山帯針葉樹林

当協会理事長 亀井 健一

亜高山帯は針葉樹林が優占

本州中部では標高約1600～2500mの地帯は亜高山帯と呼ばれ、針葉樹林が発達しています。この森林を亜高山帯針葉樹林と呼んでいます。代表的な樹種はオオシラビソ(多雪山地)、シラビソ(少雪山地)、コメツガ、トウヒです。本県においても同様の樹林が見られます。ただし、標高の高い山がない本県では、分布の上限は低く、たとえば尾瀬の至仏山では鳩待峠側で1900mぐらいです。



武尊避難小屋付近の針葉樹林

亜高山帯は気候的には亜寒帯に相当し、非常に寒冷な環境です。このような環境になぜ針葉樹林が発達するのでしょうか。針葉樹が広葉樹の生育に適さない亜高山帯に分布するのは、両者の種間競争で寒冷な環境に追いやられたために、その結果として劣悪な環境への耐性を高めたからではないかという説があります。表面がロウに覆われている針状の葉は、寒さや乾燥に強いと考えられます。なお、落葉広葉樹だが寒さに強いダケカンバ、ナナカマドなどが混生しています。

亜高山帯針葉樹林の主な観察地

白根火山ロープウェイ山頂駅付近から、草津本白根山に登る登山道があります。この登山道は亜高山帯針葉樹林を通っています。途中、登山道のきわにシラビソ、オオシラビソ、コメツガ、トウヒの4種がかたまっているところがあります。名札がつけられているので、観察によい場所です。シラビソとオオシラビソが混生しているのは、この山が降雪の多い日本海型気候区と少ない太平洋型気候区の境界だからでしょう。

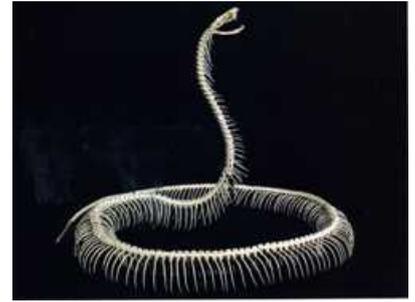
武尊牧場上部から映画「眠る男」のロケ地を通り過ぎ、武尊避難小屋に向かって進むと、落葉広葉樹林の中にオオシラビソ(別名アオモリトドマツ)が現われてきます。標高的には1600mぐらいの地点からです。次第に針葉樹が多くなり、避難小屋付近(標高約1758m)では圧倒的に優占するようになります。亜高山帯針葉樹林になったのです。場所によりコメツガ、トウヒも見られます。シラビソは見られません。尾瀬においてもオオシラビソ、コメツガ、トウヒが見られます。

<へびの話>**第5回****へびの体**

財団法人 日本蛇族学術研究所長・医学博士 鳥羽通久氏

へびは大きな餌を呑み込むので、「あごがはずれる」などという人がいるが、これは正しくない。左右のあごの先端は固定されておらず、靭帯でつながっていること、上下のあごの付け根には方形骨という骨が余計にはいつていることなどで、へびは口を大きく広げることができる。

しかし、最も不思議に思われるのは、足がなくてどうやって進むのか、ということのようで、その秘密はたくさんの脊椎骨とそれに連動した肋骨の存在である。アオダイショウを例にとると、椎骨の数は胴体で200個、尾の部分で100個ある。ちなみに尾は全長の6分の1くらいで、腹側から見ると総排出孔によって識別できる。これらの椎骨によって、へびは体にたくさんのカーブを作ることができる。ここで波が前から後に伝わるように体を変形させると、地面の引っ張りなどに力が加わり、前進することができる。また、胴体が長くなった事で、臓器も細長くなっている。



インドコブラの骨格

<協会の声>**自然の魅力再発見**

八期生

吉田 卓一

ある日のこと、梅の小枝に黄緑色のかわいい小鳥が止まったので、野鳥図鑑を持ち出して調べてみました。きっと鶯ではないかと思っていましたが、調べると、似ても似つかないその鳥はメジロでした。そんなことがあってから、新聞で「ぐんま緑のインタープリター自然の解説者養成講座」受講募集の記事を目にしました。自然の宝庫である上州、坂東太郎、山と温泉などの自然のメッセージがどこからか聞こえてくるような気持ちになり、受講いたしました。



協会員になり、研修の自然観察会では、毎回興味ある新しい発見がありました。赤城山の生い立ちでは、火山の噴火、カルデラ湖、外輪山、岩石等を詳しく説明していただき、毎日家から仰ぎ見ている赤城山が、とても身近な存在に感じるようになりました。自然の大切さを子供たちに伝え、美しい未来へとつなげていく。研修を受講するたびにその大切さを実感しています。フィールドに出て五感で物事を感じ、書物ではなく実物に触れることで、今まで見過ごしていた動植物等に対して、新たな接し方、向き合い方が出来るようになってきました。今度は私が自然との架け橋となり、子供たちに群馬の素晴らしさや自然の大切さを伝えていきたいと、思いを新たにしております。

<協会が実施する事業・研修会等>

実施日	内容	会場
平成23年1月23日(日)	会員研修 群馬の気象	前橋市総合福祉会館
平成23年2月13日(日)	公開講演会 群馬の野生動物と人との共生	県庁昭和庁舎
平成23年2月17日(木)18日(金)	チェーンソー講習	伊香保森林学習センター
平成23年3月4日(金)	刈払い機講習	木材会館
平成23年3月6日(日)	会員研修 地形と地形図の読み方	榛名ビジターセンター
平成23年4月10日(日)	総会	(前橋市総合福祉会館)

<協会ホームページ> ホームページ：<http://orange.zero.jp/asakurai.oak/> Eメール：inpuri@green.zero.jp

念願であった協会ホームページを11月1日に立ち上げました。ホームページは一度作って終わりではなく、利用しやすく、魅力あるものにするため、順次改善しながら情報を充実させていきたいと考えます。一般の人へのPRはもちろんですが、協会員の方にも出来るだけ多く使ってもらいたいため、現在、時節に合わせた表題ロゴのデザインを募集中です。そのほかホームページへの要望や情報提供などありましたらメールで連絡をお願いします。

自分たちのホームページとして魅力あるものにするため、協力よろしくをお願いします。

<編集後記>

夏の暑さに悩まされているうちにいつの間にか秋も終わり冬になるという変化の大きい季節でしたが、協会行事のもっとも忙しい、また充実した時期でした。サンデンフォレストの整備など新しい行事も予定されており、自然と親しむ機会も増えるので、自然を楽しみ、また、みんなで行事を盛り上げて行きましょう。(宇)